

額で4万1400円、約1.5倍も増額する大幅な引き上げが予定されている。区は公私格差是正のためと説明するが、これは私学への補助金を増額し、高い授業料を抑え、私学に通う子どもたちの勉学の機会を守ることが本来の趣旨である。区立を引き上げて私立との均衡を図る計画は撤回すべきと思うがどうか。

**区長** 今回の引き上げは、2年間は毎年度月額500円増にとどめ段階的に実施する。公私を問わず、同じ負担で幼稚園に通えることが必要と考えており、区立の保育料引き上げと私立の保護者補助増額で格差をなくし、就学前の子どもたちの教育環境を整え、子育て支援のより良い状況をつくっていききたい。

**学校施設の充実を求める**

学校の維持補修費は10年前に比べ半減され、PTAからも多くの改善点が指摘されている。①維持補修費を各校1千万円増額し、緊急要望にこたえてはどうか。②特別教室の冷房化を決定してはどうか。③学校再編計画に基づく統廃合で子どもが急増し、教育環境の悪化が心配される。特別教室準備室や特別支援教育に関する施設は保障されるのか。

**区長** ①維持補修は年次計画と、施設状況に応じて実施している。また、緊急の場合も予算対応している。②特別教室は、騒音対策など特別な事情により冷房化しており、今後も同様に検討していく。③再編は、学校を望ましい規模とし、教育環境の向上を目指すものである。必要な教室数はきちんと確保できる。



小学校特別教室

**21年度北口開設を目指し 野方駅周辺の整備促進を**



自由民主党・民社クラブ 大内 しんご

野方駅北口開設とバリアフリー整備は、区政の最重要項目とし、地域の代表として強く要望してきた。その結果、今年度は用地取得、基本設計、実施設計に2億1千万円程の予算が計上された。今後は、駅舎を含めた駅周辺の整備や

のためのまちづくりの全体像を示すべきではないか。

**区長** 野方駅北口問題は、長年の地域住民の悲願であり、議員が一貫して問題に取り組みしてきたことはよく承知しているところである。また、その取り組みに敬意を表する。地域の議員をはじめ多くの方に力を尽くしていただき、ようやく現在のところまで進んできたことと認識している。①駅南口についても、西武鉄道と協議し、整備を図っていく。②南口を含めた駅前広場は、野方のまちづくりにとって、重要な施設と考えており、駅周辺一帯のまちづくりについて、幅広く地元住民と議論していきたい。

**小中学校体育館の耐震補強を早期に実施せよ**

体育館は、児童生徒が1日中利用する場であり、災害時には、地域住民の応急避難の場となる。19年度は設計・積算、20年度から計画的に耐震補強するとしている。しかし、20年度まで対策を講じないのでは、保護者が子ども



西武新宿線野方駅

**中野区職員住宅を有効活用せよ**



自由民主党・民社クラブ 北原 奉昭

区には一般職員住宅と防災要員用住宅があり、いずれも長期間空室があると聞いているが、現在の状況はどうか。また、職員住宅の必要性がないのであれば、区民向け施設

も安心して学校に通わせられない。他の施策に先んじて耐震補強すべきではないか。

**第六中学校の今後について**

中野工業高校の拡張用地として都に取得の相談をしたこととはあるか。また、妙正寺川の遊水池機能を持った区民グラウンドとしての整備や避難場所として活用してはどうか。

**区長** 地域の環境に貢献する活用方法を考える中で、提案のあった中野工業高校のグラウンド拡張用地や避難場所機能の確保についても念頭に置いて考えたい。

職員住宅は老朽化が進み、募集を停止したこともある。老朽化したものは他への転用が困難であるが、防災要員用住宅の必要戸数など検証し、他の活用も検討したい。

**良好な生活環境創出に向け 共同住宅等指導要綱改正を**

共同住宅の建築は「中野区共同住宅等建築指導要綱」によって、区との事前協議が課せられ、自転車置き場やごみ置場などの指導基準が設けられている。しかし、住宅の規模によっては要綱が適用されず、地域で問題となることがある。今後要綱の適用を受けない共同住宅の建築が予想されるが、よりよい生活環境創出に向け、要綱の見直しや新たな要綱をつくる考えはないか。

**区長** 平成17年度は、共同住宅にかかる確認申請が314件あり、うち要綱が適用されないものは240件あった。これらの住宅は敷地も狭く、自転車置き場などのスペース確保が難しいが、敷地内の空地の活用や、施設管理者の居住者への適切な指導が重要と考えている。要綱の適用がない共同住宅への指導については、施設管理者の連絡先表示や入居者のごみ出し指導など、改善策を検討している。

**伝統工芸の保存・継承と 振興を支援せよ**

日本人の生活や文化のなかで伝えられた伝統工芸だが、区内ではその規模も人数も縮小している。伝統工芸は小さくてもキラリと光る産業だと



和人形製作実演(伝統工芸展)

区が支援して伝統工芸のホー

**少子化問題に対し 真正面から取り組みを**

自由民主党・民社クラブ いでい 良輔



子ども家庭支援センターでの相談

区の合計特殊出生率は、0.75と極めて低い。①少子化対策に向けた取り組みの状況はどうか。②子どもを安心して生み、育てる環境づくりとして、ファミリー世帯向けの住宅確保が重要である。今後、どのように増やす考えか。③子育て支援策として、つどいの広場や地域子育て支援センターなどの拠点整備が重要課題である。区の今後の展開はどうか。

**区長** ①地域ぐるみの子育て支援活動と連携した取り組みを児童館や子ども家庭支援センターで進めている。今後さらに、拡充する考えである。②建て替えの促進や共同化の推進などにより、ファミリー向け住宅の供給を促進する考えである。③(仮称)地域子ども家庭支援センターを

ムページを作成してはどうか。

**区長** 区内にある伝統工芸は、それぞれ貴重な財産である。多くの人にその価値を知っていただき、伝統が継承されるよう、ホームページ作成のかわり方についても、まちおこし、産業振興の施策のなかで、さまざまな支援を検討したい。

とって、有意義なものである。現在、青少年健全育成等事業補助金のあり方を見直していることだが、どのような検討をしているのか。

**区長** 団体の自主性・自立性を尊重しつつ、より透明性を高めた新たな助成の仕組みとなるよう検討をしている。

**観光行政の推進により 元気の出る中野づくりを**

観光振興に取り組むことは、まちの魅力を再認識し、区の独自性を際立たせる役割を果たす。①第2回定例会において、区内の見所やイベントなどの情報を発信することについて質問したが、その後の取り組み状況はどうか。②観光に関する区民の自主的な情報発信に対し、区の支援が必要ではないか。③職員が中野の魅力を発信できるようなプロジェクトチームの設置などを検討する考えはないか。

**区長** ①イベント情報11件をホームページに掲載し、多くの参加を得た。現在、情報収集や掲載の方法などについて検討している。②自主活動団体や商店街などと連携しながら支援を進めたい。③組織横断的に取り組みを進めるとともに、プロジェクトチームの設置などにより、職員の意識を高めていきたい。

**私道整備補助成制度の利用には柔軟な対応を**

無所属 むとう 有子

公道に連絡する私道は、車の通行量も多く、路面が傷ん

